
[た よ り]

山梨県支部だより

三井 静

山梨県透析医会は昭和54年3月に発足して、26年経過しました。前回、山梨県支部だよりを紹介していますので、今回は2回目となります。われわれの県では、年に1回の総会と3回の学術講演会開催を目標に活動を行っております。

それとは別に、ここ数年は、大災害時の透析システムの対応について、会員の意見交換や組織作りに多くの時間をさいております。昨年の暮れには、日本透析医会災害情報ネットワーク災害時情報伝達・集計専用ページのホームページリンクに入れていただきました。

なお、山梨県透析医会の災害時透析医療ネットワークシステムをとりきめて、連絡網の確認と、災害時透析対策本部の構築、伝達マニュアルの作成を検討したところであります。

富士吉田を含む郡内地区以外は、地理的には甲府を

中心にまとまりやすいと思われれます。しかし、富士川、笛吹川、荒川と大きな河川があり、分断される可能性が高いと考えております。周囲の県との関係では、当県は山に囲まれており、大震災時には交通網が寸断されやすく、陸の孤島となってしまうのではないかと危惧しております。日本透析医会本部と連携をとりながら、完成度の高い災害時透析医療システムの構築を目指して頑張っていきたいと考えます。

また、最近は建築強度の問題が大きく取り上げられておりますが、各透析施設の建築時の設計上の強度が如何であったのか、もう一度再確認する必要があるのではないかと意見もあります。その結果を如何に生かすのか、大変難しい事ですが避けて通れない課題だと考えております。